

クリスマスにおすすめの一冊

みなさんはアドヴェントのときをどのように過ごしますか。
各部の方々に、おすすめの一冊と一本を紹介していただきました。



大学 University

『34丁目の奇跡』

原題 Miracle on 34th Street
レス・メイフィールド 監督
1994年(1947年映画のリメイク版)

クリスマスが近づいてくると思い出すのが『34丁目の奇跡』という1994年リメイクのアメリカ映画である。20年以上前に観たものだが、なぜか忘れられず私の心に残っている。

ニューヨークに住むクリスという名の老人は、自身をサンタクロースだと信じ、クリスマスには子どもたちに夢と希望を与えてきた。ある事件をきっかけに、法廷でクリス老人が本当にサンタクロースであるか否かが争わることになる。判事は、クリス老人をサンタクロースとして認めるわけにはいかないと

考えていた。審判の日、判決文を読み上げようとする判事に、一人の少女がクリスマスカードと1ドル札を届けた。紙幣には“In God We Trust”とあり、それを見た判事は、サンタクロースであるか否かを法廷で立証するのではなく、我々はクリス老人をサンタクロースだと信じる、という前代未聞の判決を下すのである。

『34丁目の奇跡』は、心から神を信じ神に感謝するとともに人を信頼することの大切さを、クリス老人とニューヨーク市民との心暖まる交流を通して描いた作品である。

大学院国際マネジメント研究科教授 市野 初芳



編集後記

「ある国民は自己愛を目的として戦争を愛した。」フランス首相クレマンソー(1841～1929)の言葉です。そもそもアダムは自己愛ゆえに神に背いた罪を妻エバに擦り付け、その子カインは自己愛ゆえに弟アベルを殺しました。ウイルスに脅され続けても未だに自己愛から抜け出せないこの世に聖書は告げます。「キリストは私たちの平和である」(エフェソ2:14)と。平和の主であるキリストが今こそ私たちに宿るクリスマスでありますように。

(中等部宗教主任 浅原一泰)

Wesley Hall News 第137号

2021年12月7日発行

発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 伊藤 恵

東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL 03-3409-6537(ダイヤルイン)

〈URL〉<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>

〈E-mail〉agcac@aoyamagakuin.jp

編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会

印刷 株式会社 万全社